

青森県消防学校から依頼を受け火災調査科で使用する模擬家屋を製作しました

青森県立弘前高等技術専門校では、総合建築科で学ぶ知識・技能を活かし、地域の問題解決に協力する職業訓練に取り組んでいます。2年次から将来の職種に応じてコース選択制度を設定しており、「施工コース」では公的機関等から木造建築物の現場での製作及び補修工事の依頼があった場合、応用実習の一環として校内では体験できないこのような機会を積極的に活用しています。



今回は青森県消防学校から、これから建設業で活躍する学生のために、消防学校専科教育の火災調査科で火災の出火原因を調査する実習で使用する模擬家屋(2間×1.5間 6畳程度)の製作を通して、学生の技能スキルを高めてほしいとの趣旨で、現場実習の機会を提供していただき、総合建築科2年生の施工コースを専攻する10名の学生が校内で部材の形成、墨付け、加工、仮組を行い、建物に不具合がないかどうか確認後、青森市新城にある青森県消防学校へ搬入する準備をしました。



学生にとって、実物大の建物を製作する機会となり、全員が協力・連携しながら数日で模擬家屋を完成させることができ、令和6年11月15日(金)に建物が完成し、引き渡しをすることができました。製作を担当した学生から、「初めて本格的な建物を造ることができたので勉強になった」「最初から最後まで手掛けることができたので建物づくりの工程が分かった」などの感想がありました。



模擬家屋の製作に携わった学生からの感想



総合建築科2年
関下 光瑠
青森県立
名久井農業高等学校卒業

2間×1.5間、6畳の模擬家屋を作る実習では、CADを使っの図面作成から始まり、校内で構造材の墨付け・加工・建方が終わり、無事に上棟を迎えることができました。部材をひとつ切っ取り付けるだけでも、長さ、向き、釘やビスなどの取り付け方法と理由など、教科書通りにはならず、実物で実践してみなければ分からないことがたくさんありました。青森県消防学校へ部材を搬入してからの模擬家屋の組立ては、一度校内で建方をしていたので、土台敷きから軒桁まで番付どおりに円滑に組み上げることができました。また、全員が協力・連携して作業を進めることで、予定より早く完成することができ、改めてチームワークの大切さを再認識できました。就職先の会社では、今回の模擬家屋製作を通して学んだ知識や技能を少しでも活用し、早く一人前の大工になれるよう努力をしていきたいと思っます。

今回「学生が実際の現場で建物づくりを勉強してほしい」という趣旨で、実習の場を提供していただいた青森県消防学校の皆様には心から感謝しております。本校としても、実践に近い実習をすることができ、学生の建物の構造に関する知識習得と木材加工の腕を磨く機会になりましたので、この連携には今後も継続して取り組んでいく予定です。